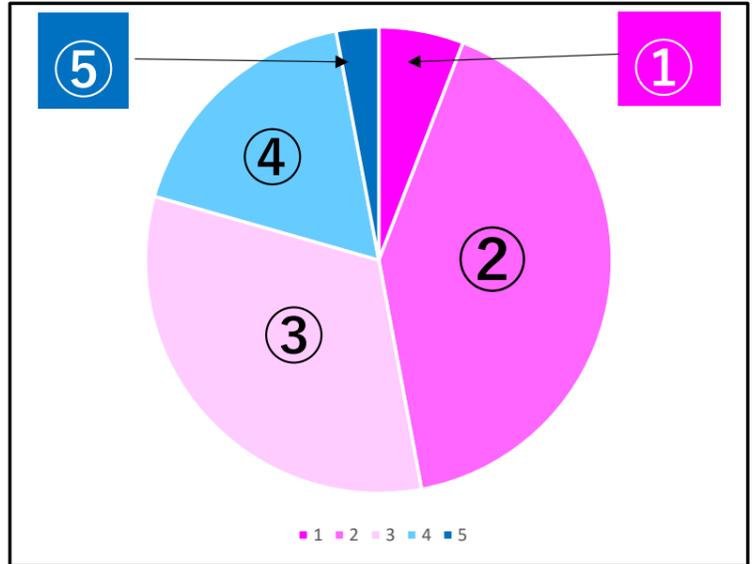


～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

## ★『第1回「個別最適化」に関する工夫の状況調査（本校職員対象）』結果発表！★

### ＜本校常勤職員の意識調査＞

①常に意識している	5.9%	69.8%
②まあまあ意識している	41.2%	
③意識している	32.4%	30.3%
④ほぼ意識していない	17.6%	
⑤まったく意識していない	2.9%	



常勤の教科担当34名に標記調査を行った。『個別最適化』というコトバを耳にしてはいるが、実際に『どのように実施すべきか』ということについてはあまり聞いたことがない。そこで本校で行われている各自の工夫について共有し、また、そこから互いにアイデアを生み出し、さらに発展させていきたいと考えている。まず、『個別最適化』への『意識』を調査した。概して『69.8%』もの担当者から『意識している』以上の回答を得ることができた。『正答』のない問いに対し『挑戦しようとしている』方が多いという結果だ。ぜひ、この姿勢を持ちながら『できることから開始する』よう促して参りたいと思う。今後、生徒の意見も聞いてみたい（教頭 星野 亨）

### ＜各教科の『個別最適化』に関する実際の工夫の状況調査＞

工夫している 工夫していない	『授業中』の『個別最適化』の工夫は？	
	工夫している	工夫していない
1_国語	60.0%	40.0%
2_地歴公民	20.0%	80.0%
3_数学・情報	57.1%	42.9%
4_理科	60.0%	40.0%
5_英語	66.7%	33.3%
6_保健・体育	75.0%	25.0%
7_芸術	100.0%	
全教科	58.8%	41.2%
主要5教科	53.6%	43.6%

『週末or長期休暇中等における課題』上での『個別最適化』の工夫は？	
工夫している	工夫していない
60.0%	40.0%
40.0%	60.0%
71.4%	28.6%
80.0%	20.0%
33.3%	66.7%
100.0%	
100.0%	
47.1%	52.9%
57.1%	42.9%

○『授業中』の『個別最適化』への工夫は、教科特性により『地歴公民』については『知識』の伝達が多いという点と、生徒全員に『共通の問い』を課するという特徴から『個別最適化』しにくいという点が浮き彫りとなった。

○『地歴公民』以外では大きな差は見られず、概して良好な状況にあった。特に『主要5教科』の割合より『全教科』での『工夫している』の割合が高くなっている点を喜ばしく感じている。さらに研究して参りたい。

○『数学・情報』『理科』という理系科目においては『個人差』が出やすいため、『課題における個別最適化』が進んでいる。

○『国語』の課題においては工夫が読み取れるが『英語』においてはその割合が『低い』。全員のレベルを一律に向上させたいという現れであろうか？同じ『言語』であるこの2教科の『隔たり』を意識していただき、さらなる工夫をお願いしたい。

### ＜各教科の『授業中』における『個別最適化』に関する実際の工夫（一部）＞

- ・生徒の理解度に応じて、自分で問題を解く人・一緒に考えながらやる人・教えてもらう人というふうに分けて進んだ。
- ・問題演習実施後に生徒個人で課題を設定し、その解決のための時間を設けている。
- ・グループ学習において、グループで問いに対する回答に到達した後に、個人で回答を文章にまとめる振り返りを実施する。
- ・一斉授業の中で複数回の解説を難易度別に実施。理解できている生徒は各自演習に進む。特に上位層向けにも高度な解説を行っている。
- ・授業で問題演習をさせる際に、複数の課題（松・竹・梅）を用意し、生徒が自分自身の状況に合わせて選択できるようにしている。
- ・自分の意見、考えを問う課題を設定する際、複数のテーマを用意している。生徒が自分の興味関心に応じて選択できる工夫をしている。
- ・創作活動において、生徒の経験に応じて条件を変更した。経験の浅い生徒は条件を多くして当てはめれば自然とそれなりものができるようにして、経験の深い生徒には自由度を高くして複雑な楽曲を作れるようにした。
- ・学期の始めに各自の力や進路希望に合わせて必要な学習課題（5つから選択。個人の希望も可）を選択し、毎回の授業で課題にどのように取り組むか計画を立てる。毎回の授業で計画に従って課題に取り組み、授業の終わりに取り組み状況の振り返りをする。
- ・説明をするときに、わからない人は前に来て説明します。わかる人は次の問題をやってくださいと選択させた。
- ・①授業における発問は、「生徒」対「教員」、「生徒」対「生徒」のディスカッション形式を意識。課題（質問）を生徒に投げかけるが、正解は求めない。個々、またはペア、グループから様々な答えを引き出し、個々の生徒の理解状況を察しながら、個別の質問に変え、再度、投げかけながら深め、皆で共有していく。また、生徒の理解が不十分と感じたときは、発問の仕方や説明を変えていく。個々に質問する場合は、周囲の生徒とともに考えさせ、プレッシャーにならないよう、発言しやすいリラックスできる雰囲気を作っていく。
- ②実験においては、様々な場面で、なるべく生徒に選ばせる機会を増やすように意識している。

### ＜各教科の『週末or長期休暇中の課題』における『個別最適化』に関する実際の工夫（一部）＞

- ・classiの課題配信、模試の過去問・ワークにて自分の苦手にあわせて選択可能とした。
- ・課題として、ABCの3つの難易度を選択して、どれかひとつ解くことを課題とした。
- 長期休業課題として、A基礎、B標準、C応用が掲載されている問題集から、Bは全員対象課題、その他に分野毎で、AまたはCを生徒本人に選ばせた。（一応、文系はA、理系はCを推奨はした）
- ・提出必須の課題以外に自由提出課題を設定し、提出した場合は成績に加算した。
- ・「このレベルを目指すなら、この問題」と目安を示し、課題を課している。
- ・練習問題、補充問題をGoogle Classroomで配信。スタディサプリの到達度テスト(WEB版)実施とその結果に応じた個別課題の配信。
- ・①定期考査前の課題（週末課題等）の場合、基本事項の問題は全員必須とするが、応用問題、発展問題は、何問かの中から選ばせるようにしている。その際、授業の中で、応用問題、発展問題の内容について、模試や大学入試での出題頻度や出題傾向に触れるようにし、単に考査勉強で終わらないように、個々の進路希望に即して選ばせるよう指導している。
- ②長期休暇中の課題については、なるべく広範囲から課すようにし、全部の問題に目を通させた上で、苦手なところを集中的に取り組める、または基本と応用のバランスを変えて選択できるように心がけている。また、授業の中で（またはプリントを作成し）、課題への取り組み方、選択問題の選び方等、将来の進路選択にも触れながら、生徒への学習の動機づけを心がけている。

生徒の進路に応じて任意のワークの提出や、地理を受験で必要とする生徒には、模擬試験のやり直しの課題を課した。

★校長より★ 「主体的な学び」が話に出されるとき、よく耳にする言葉が個別最適化学習です。全員が同じ問題に取り組む学習から生徒個人に適した学習に切り替えるというものです。義務教育段階では一部、「自由進度学習」なども研究されているようですが、高校ではまだ、あまり話を聞きません。ただ、授業や課題提示を少し工夫するだけで、個別最適な学びは可能になっていくと思います。例えば、「問題集で前回、解けなかった問題を解きなおす」は個別最適化学習です。Classiにも個別最適化のサービスがあります。今回、先生方が授業や課題の中で個別最適化を意識した工夫を挙げていただきました。個別最適化学習では生徒の皆さんに自分の学習を選択したり作り出したりする場面が出てきます。そこでは自分は何を分かっている、何を分かっているのかを理解した上で、向上心を持って選択、作り出しをする必要が出てきます。先生達だけでなく、生徒の皆さんにも新しい挑戦になると思います。 校長 原 拓史